

授業作り	重点	話し合い活動により生徒が楽しく学び合い、『わかる・できる』ようになることを目指す
環境作り		生徒が落ち着いて過ごし、学習に集中できる掲示物の掲示方法を工夫する

■ 各教科の取組について

教科	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子などから)	目標達成のための取組
国 語	<ul style="list-style-type: none"> 授業が「よく分かる」「どちらかといえば分かる」という項目に9割近くの生徒が肯定的回答をした。 「事象や行為、心情を表す語句について理解する」という観点で、平均より低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 意識調査の結果から、意欲的に学習に臨む生徒が多いといえる。しかし、漢字の書き取り問題に苦手意識のある生徒や自分の意見に自信をもてない生徒がいる。引き続き授業においてペアや3、4人の少人数での話し合い活動を取り入れ、学び合いを通して苦手意識の軽減を図る。 教科書の教材だけでなく、幅広い読書活動の場をつくり、国語が好きで得意な生徒を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ①図書館を活用した授業 ②グループワークでの意見交流 ③デジタルドリル等の活用 ④漢字の小テストや聞き取りテストの定期的な実施
数 学	<ul style="list-style-type: none"> 問題に取り組む様子から、学習した内容の理解や定着が十分ではない生徒が2割近くいる。 各学年とも、基礎的な計算及び既習の知識を活用する発展問題等に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着及び計算の手順や法則についての理解を図るため、基礎的・基本的な学習を反復する時間を毎回の授業において設定する。 応用問題に対する苦手意識の解消及び生徒が粘り強く問題に取り組むために、体系的な繋がりを意識した指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①体系的な繋がりを踏まえた授業展開 ②デジタルドリル等の活用 ③単元別テスト等の定期的な実施 ④習熟度別少人数クラスを活用した生徒の実態に応じた分かりやすい指導
理 科	<ul style="list-style-type: none"> 区学力定着度調査の結果において、区の平均正答率を下回った。特に学習内容の定着に課題があり、学習してから時間がたつと忘れる傾向がある。 実験観察に意欲的に取り組む生徒が多いが、考察する前に、すぐに正解を知ろうとする傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項について反復練習する時間を授業内に確保するとともに、各学年の系統性を意識した授業を展開することにより、長期的に既習事項を知識として定着できるようにする。 実験・観察を行う前に既習事項や生活体験を基に根拠を基にした予想を個人で立てさせ、実験・観察を通して得た結果から分かることについて話し合い活動を取り入れながら考察させることで、自ら考察できる力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①系統性を踏まえた授業展開 ②デジタルドリル等の活用 ③結果を基に自ら考察する授業展開
社 会	<ul style="list-style-type: none"> 授業が「よく分かる」という項目について、第1学年は都の平均を大きく上回る回答があったが、第2学年及び第3学年は大きく下回った。 生徒の多くは授業に積極的に臨んでいるが、考える活動においては消極的になる傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1学年での既習事項を各学年の学習内容と関連付けた指導を行い、生徒に学習内容のイメージをもたせることで理解を深める。 生徒が身に付けた知識を即時的に使えるような問いを授業中に多く設定することで、獲得した知識を基に考えられる力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学年間の学習内容の繋がりを踏まえた授業展開 ②デジタルドリルの活用 ③授業におけるICT機器の活用 ④知識を基に考えさせる授業展開
英 語	<ul style="list-style-type: none"> 区学力定着度調査の結果において、区の平均正答率を上回った。リスニングや並べ替え、読解、英作文等の力を総合的に身に付けさせることができた。 英会話の表現や速読の力を高めることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や家庭学習に意欲的に取り組む生徒が多いため、英語による授業を行うことで知的好奇心をより向上させる。また、分かりやすい説明を行うとともに生徒が活動する場面を多く設定する。 表現力を高める活動として、単語や英文を音読する練習、タブレット端末でのタイピング練習を兼ねた英作文、読解問題、スピーチ等の指導を繰り返し行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①習熟度別少人数授業での楽しく分かりやすい授業展開 ②デジタルドリルの活用 ③スピーチやペア・グループワーク等英語表現を伸ばす活動の実施